

農あるまちって いいね！

第3回 青葉区は横浜を代表する 米どころ！



黄金色の田園風景と、おいしい新米の季節がやってきました♪



撮影協力：三澤総合農場(奈良町)

青葉区の水田の耕地面積は3,199アールで、市内ナンバーワン*の広さを誇ります！心とむ田園風景は、農家さんが手間をかけ育てくれる地域の財産です。

※「なるほどあおば2023 データで見る青葉区」より

おいしいお米を作るためには、手を抜かないことが大切なんです。

冬の間は、「粗^{あら}おこし」を数回行い病害虫を防いだり、春には土を細かく砕いて肥料を混ぜ、水が均等に
行き渡るよう田んぼを水平にする「中^{ちゅうこう}耕」や
「こなし」を行うなど、何度も耕します。
また、水が入ったら、水量の見回りも欠かせません。
丁寧さは、おいしさや収穫量にもつながります。



いのうえ たいち
代々恩田町でお米を生産している井上 太市さん

知ってた？ 農の豆知識

野焼きを見かけたけれど…

農家が、稲わらなどを生活環境に被害が生じないように配慮した上で野焼きをすることは、市の条例*で例外として認められています。

稲わらなどの病害虫を駆除し、残った灰は土壌に戻し資源を循環しています。

※横浜市生活環境の保全等に関する条例